

テーマ実施の回数

月に1回から2回

テーマの実施期間

5月から8月

テーマの活動内容

天蓋の上にカラーセロハンの星形を置くと天蓋に手を伸ばそうとしたり、窓からの木漏れ日が保育室の床の上に照らされると光を触ろうとしたりしていた。このことをきっかけに光について働きかけてみた。キラキラだね・・・きれいだね・・・なんだろうね・・・さわりたいね・・・など一緒に光を見ながら声をかけていった。影で手の狐を作って壁に映し出したり、段ボールトンネルにセロハンを貼ってのぞいてみたり、衣装ケースの中にライトを入れてみて、子どもたちの探索活動を進めていった。

テーマの環境をデザインする

保育室のてんがいの上に星形に切ったカラーセロファンやセロファンで作った傘などをぶら下げる。

受け入れ室の電気を消して、明るさをわかりやすくした。

懐中電灯で影絵をする・プッシュライトを天井に反映させる・段ボールでトンネルを作り星型の肩を抜きカラーセロハンを貼る・プラネタリウムライトでお部屋を暗くして天井にあててみる・透明の衣装ケースの中にプッシュライトを入れ衣装ケースからの光を触ろうとする。

テーマ活動の予定（探求活動を実施記録）

・てんがいの下から部屋の電気を通して、セロハンの星や傘が色とりどりできれいにみえた。顔を上にあげて不思議そうに見ていたので、「お星さまだね、光ってるね」と言葉を掛けながら、だっこすると手を伸ばして取ろうとした。



・プラネタリウムライトを部屋の天井に照らし「キラキラだね」「お星さまいっぱいでしょ」と言葉掛けしていると、動く星たちを追って捕まえようとつかまり立ちをして、手を伸ばし動く星を捕まえようとしていた。きらきら星の歌を歌ってみると手をきらきら動かしている子もいた。きらきらと星の光の動きが結びついていた。次にバケツの中にライトを入れると青の光になり、青い色だね…という不思議そうにみてゆっくり近寄って、光を触ろうとした。



・衣装ケースの中にプッシュライトと星のセロハンをいれるとつかまえようとするので、「とれるかなー」と声をかけると、顔を近づけたり、口で食べようとしたので、「食べられないねー」と言うとも顔をあげ、きょとんとしていた。

・懐中電灯を使い、壁に影（指のきつね）を作り、「コンコン・・・きつねさんだよ」と照らしてみると動く影をみて、不思議そうに見ていた。保育士の手の動きと影の関係に気づいていない様子で影の方をじっと見て、近寄っていた。

・段ボールでトンネルを作り、星の形の穴を開けカラーセロハンを貼ると中に入ってトンネルの中から手をかざして不思議そうに掴もうとしていた。少しセロファンに手が触れ、「お星さまあるねー、きれいだねー」と共感すると満足そうな表情を見せた。



テーマを振り返る

初めての光との出会い、興味深々にそばに寄って行ったり、触ろうとしたり、指をさして、喃語で訴えてきたり、口で食べようとしたり・・・ひとりひとりの光に対する反応、表現の仕方がちがいで、0歳児ながら、きれいだな・・・ふしぎだな・・・の気持ちを表していることを感じられた。日々の保育の中で、光るもの、揺れるもの、動くもの、きれいな色のものなど、0歳児が感じとっているサインを見逃さずに丁寧に保育していくことを今後もしっかりやっていきたいと思います。

